



Jichi 地域連携ニュース

- ・形成外科学部門のご案内 ……吉村浩太郎
- ・NST研修会のご案内
- ・自治医科大学附属病院医師同門会について

- ・FAXによる患者様紹介について

形成外科学部門のご案内

形成外科・美容外科・小児形成外科 科長
形成外科学部門 教授
吉村 浩太郎



自治医科大学の形成外科学部門には、3つの診療科があります。自治医科大学附属病院では“形成外科”と“美容外科”が、とちぎ子ども医療センターでは“小児形成外科”が、診療を行っております。“形成外科”では、全身にわたる体表の疾患や外傷、術後の変形や欠損の治療を行います。顔や手では、骨折の治療も行います。“美容外科”では、疾患以外の外貌に関する要望に応えます。“小児形成外科”では、15歳未満の患者の形成外科を行っており、主に頭蓋顎顔面や手足の先天異常の治療になります。

我が国での形成外科の生い立ちは約60年前のことです。当時先天異常を扱っていた3つの診療科（耳介などの奇形を扱う耳鼻科、手足の奇形を扱う整形外科、あざを扱う皮膚科）の寄り合いで、新しい診療チームが組織されました。Plastic Surgeryの訳語として、学会の名称には“形成外科”という文字を使うことに決めました。ちなみに中国や台湾では、“整形外科”（形を整える）と書きます。日本の整形外科のことは、中国語では“骨科”（骨を治す）と書きます。美容外科は、中国語でも“美容外科”と書きます。

その後、形成外科は手術や外傷に伴う大きな組織欠損の再建を担当するようになりました。1970年代からマイクロサージャリーの技術が生まれてからは、血管・神経の解剖に基づいて移植可能な組織が身体中で調べ尽くされ、様々な新しい術式が生まれました。そして臨床における多くの試行錯誤を経て、治療法が洗練されてきました。形成外科の今後の発展としては、組織の再生医療と肥沃化医療を挙げることができそうです。

形成再建外科はその発展の歴史の中で、患者身体の“ある部分”の再建をするために、患者の身体“別の部分”を傷つけ犠牲にして（移植するための組織を採る）きました。形成外科はいま、一つ一つの術式に伴う潜在リスクと身体犠牲を、正当化し最小化する必要に直面しています。その究極の解決法が、ゼロ（幹細胞）から組織を新生する再生医療です。試験管内で組織や臓器を作らなくても、体内に存在する幹細胞の挙動を体外から制御することだけでも、体内で適切に組織を新生させることもわかってきました。細胞の挙動を制御する技術の開発が、この医療の道筋になっています。

形成外科は、これまで主に組織の形や量を変えることでその治療目的を達してきました。しかし、組織の質（機能）を変える、改善する、ことはできませんでした。質の悪い病的組織、それは虚血で、治療能、予備能、伸展能がない組織で、その多くは慢性炎症や線維化（石灰化）を伴います。組織が本来持つべき幹細胞や増殖因子はすでに消耗して枯渇してしまった不毛な組織になっています。重症のものでは、何かの手術をしてもその手術創自体が治療できない状態に陥っています。代表的なものは、がん治療で放射線治療を行った周辺組織です。自己免疫疾患もそうですし、虚血性疾患、線維性疾患や代謝性疾患でも変性と慢性炎症の成れの果てとして見られる病態です。これらは、体表組織に限られるわけではなく、全身にわたる多くの臓器に共通して起こりうる病態です。このような不毛の組織を、元通りに戻すのが、肥沃化治療です。すでに乳がんの温存治療などの放射線障害組織や糖尿病性慢性皮膚潰瘍において、その治療効果が明らかになっています。これからの形成外科は、形だけでなく、組織の質、機能も治していきます。当形成外科学部門では、こうした分野で世界をリードする研究や治療を行っています。

当形成外科学部門では、体表の外傷、顔面骨骨折、広範囲熱傷、手指の断裂や骨折をはじめ、多くの救急外傷にも積極的に対応していきます。また、こうした外傷の治療後の変形や運動制限（拘縮）の治療、また肥厚性瘢痕やケロイドの治療、さらには美容的なキズ痕のケアも行っています。小児形成外科で行

う先天異常の治療は高く評価され、治療の難しい患者様が近隣から数多く紹介されてきます。さまざまな癌の切除後に見られる組織の欠損の再建治療、骨・筋肉や内臓の露出部位の被覆再建、症状固定した顔面神経麻痺の再建、放射線障害や炎症性疾患による組織の萎縮、拘縮や痛みの治療を行います。傷痕や引きつれに伴う痛みや運動制限の多くは、実は適切に治療することが可能です。我が国の形成外科で統計上最も多く行われている手術は、加齢性の眼瞼下垂の手術で、これは入院なしでも行うことが可能です。腋、性器、臍、髪の毛や爪など、全身の体表の悩みに対応しています。今後は、褥瘡、糖尿病性潰瘍、放射線潰瘍、骨髄炎をはじめとする、様々な慢性難治性皮膚潰瘍についても、積極的に対応していく所存です。今後とも皆様方のご指導、ご指摘を賜れましたら、幸甚に存じます。

NST研修会のご案内

参加無料（事前申し込み不要）

会 場 自治医科大学地域医療情報研修センター 中講堂（本館西側の茶色の建物）
内 容 NSTのための知識・技術を有する看護師・薬剤師・管理栄養士の養成を目的とした研修
問合先 臨床栄養部 NST支援室 ☎ 0285-58-7574 メール nst@jichi.ac.jp

開催月日・会場	テ ー マ	講 師
平成29年 3月 7日（火） 18：00～19：00 研修センター 中講堂	摂食・嚥下障害患者への支援 （口腔ケア・食事介助）	歯科口腔外科 若林宣江 歯科衛生士（NST運営委員会） 看護部 戸田浩司 看護師（摂食・嚥下障害看護認定看護師・NST専任看護師）

自治医科大学附属病院医師同門会について

当病院では、OB医師を中心に「自治医科大学附属病院医師同門会」を組織し、総会・懇親会の開催や会報の発行等を行っております。

入会の条件は、「①自治医科大学附属病院で、常勤の医師・歯科医師として勤務経験があること、②同会の趣旨に賛同していただくこと」の2点のみです。会費は3年間で1万円です。

これを機会に是非入会をお勧めいたしますとともに、皆様方の周囲に当病院OB医師がおられるときは、当会の存在をご案内くださいますようお願いいたします。

入会に関する連絡・照会先は次のとおりです。

自治医科大学附属病院 医師同門会事務局（地域医療連携室内）
担 当：小島 一夫、加納 秀樹
TEL 0285-58-7463 0285-58-7461
FAX 0285-44-5397
e-mail byoushin3@jichi.ac.jp

FAXによる患者様紹介について

当院では、FAXにより患者様の事前予約を行っております。事前にカルテの作成等事務手続きを済ませておくため、受診当日の患者様の待ち時間が短縮されます。是非ご利用いただきますようご案内いたします。

F A X 事前予約受付（休診日を除く）
月曜日から金曜日まで 午前9時～午後3時《厳守》

— ご注意 —

- ◆ 医療機関以外（患者様本人等）からの予約受付は行っておりません。
- ◆ 受診当日の予約、および時間予約は行っておりません。
- ◆ 予約を変更（又は取消）される場合は、事前に紹介元医療機関から地域医療連携室までご連絡ください。

< FAX予約のご利用方法 >

1. 「紹介状（診療情報提供書）」および「FAX診療予約申込書」を作成し、当院あてにFAX送信してください。FAX診療予約申込書は、当院のホームページ（<http://www.jichi.ac.jp/hospital/>）よりダウンロードできます。
2. 当院では予約をお取りし、「FAX・紹介患者のお知らせ（返信）」と「FAX診療予約申込書」を返信します。
3. 患者様に「紹介状（診療情報提供書）」と「FAXによる診療」予約票をお渡しくください。
4. 来院日には、「紹介状（診療情報提供書）」と健康保険証を持参し、医事課・FAX紹介状提示窓口に提示するようご案内をしてください。

